

(9) 知能テスト及び学力テスト

知能テストは、目標設定の基礎資料を得るために、特別に実施したものではなく、学習指導のために、市内小中学校児童生徒に対して、従来から実施してきたものを集計整理して今回の基礎資料とした。

学力テストに関しては、国立教育研究所作成の学力水準テスト、並びに国語の読み書き能力テスト及び算数・数学の基礎計算力テスト等を実施してきた。併し学力全体をみる上からは、なお不十分であると考えられたので、これらのテストの結果を十分に活用すると共に、更に全般的な学力の状況を概観したいと考えて何か適当したテストをと考えて幾つかのテストを検討したわけであるが、これといって適当なものが見当らなかった。そこで幾つかの問題点をもつてはいるけれども、とりあえず市販（K書房刊行）の「教科別標準学力検査」を選んで、これを実施した。

(I) 知能テスト

(a) 対象人員

項目 学校種別	在籍者	実施者	在籍者=対スル百分率
小学校	11,023	6,274	56.91%
中学校	4,395	4,066	92.51%

種別	校名	学年別						計
		I	II	III	IV	V	VI	
小学校	柳原				335		373	708
	東		184		276	262	245	967
	西		199	224	679	269	270	1271
	相生		213	251	301	20	286	1311
	相助		141	133	162	181	152	769
	毛野						234	234
中学校	山辺		287		374		353	1014
	小計		1024	608	1727	1002	1913	6274
	第一	322	291	247				863
	第二	435	373	323				1131
	第三	396	331	299				1026
	毛野	141	117	114				375
山辺	265	247	159				671	
小計	1562	1362	1142				4066	

(b) 採用したテスト

小学校2~3年

小学校低学年用田中B式知能検査（第一形式） 6~9才

小学校4~中学校3年

新制田中B式知能検査（第二形式） 小学4年~成人

(c) 調査期日 昭和28年7月

(d) 処 理

児童生徒の知能分布と理論上の分配との比較（偏差値による）

種別	項目	知能段階						
		最劣 5~24	劣 25~34	中下 35~44	中 45~54	中上 55~64	優 65~74	最優 75~100
中学校	本市平均%	2.36	8.76	25.07	39.2	20.6	3.81	0.2
	両者の差	+1.36	+2.76	+1.07	+1.2	-3.4	-2.19	-0.8
	人数	96	353	1019	1594	838	155	8
小学校	本市平均%	2.58	8.87	26.82	37.16	19.74	4.46	0.37
	両者の差	+1.58	+2.87	+2.82	-0.84	-4.26	-1.54	-0.63
	人数	162	557	1683	2332	1237	280	23

(e) 偏差値の平均及び分散

種別	学年別	項				
		調査人員	偏差平均	標準偏差値	全国偏差値平均	全国標準偏差
中学校	全学年	4065	47.83	10.5		
	一	1562	47.01	10.53	44.92	8.28
	二	1362	47.10	10.05	46.16	7.32
	三	1142	49.83	10.8	50.24	5.47
小学校	全学年	6274	47.63	10.84		
	高学年	4642	46.89	10.88		
	低学年	1632	49.78	10.4		
	一	1024	47.82	10.08	48.48	11.71
	二	608	53.08	10.18	48.68	8.84
	三	1727	46.93	10.99	49.32	12.38
	四	1002	47.78	10.56	53.16	8.62
五	1913	47.28	10.62	47.76	9.19	
六						

第二型式 偏差値平均 49.68 標準偏差 8.7

(d) 学年分布

知段能階	学年別	偏差値									
		■	■	IV	V	VI	計	VII	VIII	IX	計
最劣	5~9	1		6	3	4	14	5	1	1	7
	10~14	1		5	6	6	18	3	1	3	7
	15~19	6	2	18	3	17	46	11	7	5	23
	20~24	12	3	32	12	25	84	25	20	14	59
劣	25~29	30	11	73	16	60	190	48	45	31	124
	30~34	41	12	148	53	113	367	93	88	51	232
中下ノ	35~39	107	32	210	115	210	674	176	145	82	403
	40~44	179	64	288	181	297	1009	258	214	144	616
中	45~49	233	89	204	191	374	1191	323	307	215	840
	50~54	186	114	234	182	375	1141	269	245	240	754
中上ノ	55~59	112	131	204	133	266	846	214	179	163	556
	60~64	71	88	84	65	83	391	84	78	120	282
優	65~69	37	45	51	27	68	228	40	28	52	120
	70~74	6	10	17	10	9	52	10	8	17	35
最優	75~79	2	5	2	2	4	15	2	1	3	6
	80~84			1	2	2	7	1			1
	85~89				1		1			1	1

(g) 結果の概要

表からも明らかなようにこの地域の児童生徒の知能は、ほぼ50前後の偏差値を示しており全国偏差値の平均と殆んど変りがない。又当然なことではあるけれども、男女の差も認められない。

ただこのような断定を下すに当っては、充分反省しなければならないと考えている。予算と期間とさえ許せばB式以外にA式も併せて実施したいと考えたができなかった。

(I) 学力テスト

(a) 調査主旨 この調査は足利市の児童生徒の学力の全般的な状況を明らかにして、教育目標設定のための基礎資料を得ようとして行ったものである。

こうした目的からすれば当然全市の小中学校の児童生徒について実施しなければならないのであるが、調査の期日・経費等の点から不可能なので、次に述べるような教科と児童生徒に限りこれを実施した。

(b) 実施した教科並びに調査対象

実施した教科は国語・算数数学・社会・理科の四教科

学年	種別		児童生徒数	学級数	標本数		
	男	女			男	女	
小1	男	女	1013 995	2008	39	78 78	156
	小2	男女	782 728			1510	
小3	男	女	844 814	1658	31	62 62	124
	小4	男女	1068 968			2036	
小5	男	女	977 987	1964	35	70 70	140
	小6	男女	1011 965			1976	
中1	男	女	904 799	1703	33	66 66	132
	中2	男女	812 638			1450	
中3	男	女	672 571	1243	25	50 50	100

○各クラス男女各々出席簿の5番と15番の2名を選出した。

男子590名 女子590名 計1180名を抽出してテストを実施した。

(c) 調査期日 昭和28年12月

(d) 調査方法 各学校より選出されていた研究所研究員並びに教育目標設定委員が各校の児童生徒をテストした。又学力テストを行うと共に学力に影響を及ぼしていると思われる家庭の教育条件をも調査した。この家庭における条件の調査は各学校のクラス担任教師に面接して行った。学力に影響を及ぼす要因としてはこの他に学校の条件教員や教科書の問題等も調査しなければならないと思うけれどもこれを行うことはできなかった。

(e) 調査結果の概要

前述のようにこの調査は児童・生徒個人の学力をみようとしたものではなく足利市全体として、これを他の地区との比較において把握しようとしたものであり、集計も各教科の全学年並びに各学年の成績が全国的の標準と比較してどうであるかということを中心として検討した。

又採用はテストの性格からいって多少問題はあったけれども、構成されている個々の問題についての通過率の検討を行い、それぞれの教科の中でどのような点に欠陥があるのかということについてもできるだけ明らかにしようとした。

以下紙数の関係から、テスト問題並びに個々の問題の通過率等に関する事柄は省略して、各教科、各学年別の得点の全国との比較表と調査結果の各教科において特に意を用いなければならないと思われる点の概要を述べてみる。

(1) 国語科

◎学年別 得点平均及び標準偏差(全国との比較)

	小 学 校												中 学 校					
	1年		2年		3年		4年		5年		6年		1年		2年		3年	
	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市
得点平均	23	20.0	30	21.6	33	29.1	31	28.2	46	46.1	54	55.8	57	57.2	58	57.5	58	58.1
標準偏差	13.7	11.1	14.9	12.4	16.8	17.5	16.3	16.6	19.4	22.3	22.6	23.6	17.1	18.7	16.6	16.6	18.1	22.6
全国平均との差	-2.0		-8.4		-3.9		-2.9		+0.1		+1.8		+0.2		-0.5		+0.1	

◎学年別 得点段階別成績 (全国と足利市との比較表)

段階	種別 偏差値	小 学 校												中 学 校					
		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		1 年		2 年		3 年	
		全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市
-3	24以下	1	2	1	..
-2	25~34	3	3	5	13	..	8	7	10	3	3	10	2	5	4	8	10	6	5
-1	35~44	18	32	26	48	29	42	23	31	26	37	22	31	26	25	27	18	26	32
0	45~54	53	36	34	25	31	26	33	25	40	28	36	32	34	35	32	41	38	24
+1	55~64	19	23	23	11	23	18	24	26	23	19	21	20	25	26	26	21	21	18
+2	65~74	4	5	11	3	12	5	10	7	5	9	16	12	8	9	6	8	8	16
+3	75以上	2	1	1	..	2	1	3	..	4	4	1	1	2	1	1	2	1	5

◎表に示されたように全体としては、ほぼ全国標準に達していると思われるが、小学校の低学年が稍全国的な標準よりも劣っているように思われる。

(ロ) 算数数学科

◎学年別 得点平均及び標準偏差 (全国との比較)

段階	種別 偏差値	小 学 校												中 学 校					
		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		1 年		2 年		3 年	
		全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市
得点平均		16	16.6	25	21.0	18	16.2	11	10.6	8	7.3	14	15.3	19	17.2	28	31.5	33	37.6
標準偏差		7.0	8.1	4.8	10.5	11.0	9.9	4.8	6.9	4.1	5.0	6.4	9.8	7.1	8.5	11.3	11.8	11.4	12.4
全国平均との差		+0.6	-	-4.0	-	-3.8	-0.4	-	-0.3	+1.3	-	+1.3	-	-1.8	+3.5	+4.6	-	-	-

◎学年別 得点段階別成績 (全国と足利市との比較表)

段階	種別 偏差値	小 学 校												中 学 校					
		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		1 年		2 年		3 年	
		全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市
-3	24以下	4	1	..	1
-2	25~34	5	7	2	8	2	3	9	16	10	16	6	11	3	9	3	1	8	1
-1	35~44	25	28	26	32	26	34	25	21	25	33	20	17	27	31	22	17	24	19
0	45~54	39	34	39	45	40	39	39	27	35	25	42	21	40	40	47	59	40	32
+1	55~64	22	21	23	12	21	21	16	19	21	14	20	27	25	12	21	30	23	28
+2	65~74	5	9	8	3	9	3	10	10	7	10	9	4	4	6	4	12	5	20
+3	75以上	4	1	2	..	2	..	1	3	1	2	2	10	1	2	3	1	1	..

◎国語と同様はほ全国的標準に達してはいるが、小学校中学年が稍劣っているように思われる。

(ハ) 社会科

◎学年別 得点平均及び標準偏差 (全国との比較)

段階	種別 偏差値	小 学 校												中 学 校					
		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		1 年		2 年		3 年	
		全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市
得点平均		23	15.6	16	17.2	22	21.6	17	13.1	26	23.9	28	26.3	39	42.3	67	75.9	76	82.1
標準偏差		8.5	9.3	5.2	7.9	9.3	11.3	8.5	9.3	16.8	15.3	8.9	10.9	16.9	17.2	24.1	20.2	24.3	29.3
全国平均との差		-7.4	+1.2	-	-	-0.4	-	-3.9	-	-2.1	-1.7	-	+3.3	+8.9	+6.1	-	-	-	-

◎学年別 得点段階別成績 (全国と足利市との比較表)

段階	偏差値	小学校												中学校						
		1年		2年		3年		4年		5年		6年		1年		2年		3年		
		全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	
-3	24以下	0	4	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0
-2	25~34	10	23	1	13	12	12	10	18	7	1	8	17	4	4	3	1	9	8	
-1	35~44	21	39	18	15	18	27	27	34	26	33	18	24	26	24	29	16	23	22	
0	45~54	34	41	41	28	42	29	32	28	36	39	40	26	38	40	32	36	31	28	
+1	55~64	22	9	19	16	19	25	23	13	22	16	21	18	24	20	30	40	25	22	
+2	65~74	11	2	10	17	8	6	6	4	9	4	11	12	5	10	6	7	5	20	
+3	75以上	2	1	1	5	1	2	2	2	0	2	2	1	3	2	0	0	1	0	

◎社会科も全体的には全国標準にてらしてみても劣っているとはいえないけれども、小学校一年生は稍悪い、又中学3年は全国標準よりも稍よい。一年生の悪い原因としては問題そのものについても考慮しなければならないと思われる点が認められるが、又一年生の社会科の取扱い方について考えなければならない点があるように思われる。中学3年のよい点については、指導の適切なことと共に特に3年生になって上級学校に進学しようとして試験勉強に力を入れるためにこの種のテストによる点がよくなっているのではないかと思われる。

(二) 理科

◎学年別 得点平均及び標準偏差 (全国との比較)

	小学校												中学校					
	1年		2年		3年		4年		5年		6年		1年		2年		3年	
	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市
得点平均	9	6.1	13	13.9	25	24.9	26	22.6	33	32.2	39	37.7	40	42.4	35	35.6	45	50.9
標準偏差	3.0	4.7	4.5	6.4	5.8	8.4	9.2	9.3	11.1	12.3	7.1	10.5	12.5	15.7	12.4	11.9	16.1	17.6
全国平均との差	-2.9	+0.9	-0.1	-3.4	-0.6	-1.3	+2.4	+2.6	+5.9									

◎学年別 得点段階別成績 (全国と足利市との比較表)

段階	偏差値	小学校												中学校					
		1年		2年		3年		4年		5年		6年		1年		2年		3年	
		全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市	全国	足利市
-3	24以下	0	20	0	0	8	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
-2	25~34	7	34	2	7	2	9	5	8	5	12	8	12	4	6	3	1	4	5
-1	35~44	23	17	25	14	19	13	29	33	23	20	22	30	25	28	2	32	23	16
0	45~54	32	13	43	25	33	30	32	32	34	35	46	26	40	31	32	37	33	33
+1	55~64	25	8	23	31	31	28	25	22	28	27	18	18	24	23	26	24	24	35
+2	65~74	10	5	5	13	13	11	6	2	10	4	4	7	6	11	7	5	10	7
+3	75以上	3	3	2	10	2	1	3	1	0	2	2	2	1	2	3	1	0	4

◎理科も又、他の教科と同様全国的な標準には達しているけれども、小学校1年と6年が劣り中学3年が社会科と同じように比較的勝れている。理由としては社会科と同様中学生特に三年生がよくなっているのは試験勉強の結果急に伸びているためと考えられる。

(ホ) 教科別・学年別・男女別比較 (標準偏差値平均並びに標準偏差)

種 別 得 点	小 学 校						中 学 校												
	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		1 年		2 年		3 年		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
国語	偏差値	50.1	48.5	44.0	41.8	46.8	48.2	47.6	44.5	50.0	50.9	52.1	50.3	49.2	52.9	49.3	51.2	53.5	49.6
	標準偏差	11.6	10.2	8.8	9.2	10.8	10.8	9.9	10.6	12.4	10.4	11.1	9.8	10.1	9.3	10.3	11.1	12.8	11.1
	男女の差	-1.6		+0.8		+1.4		+1.9		+0.9		-1.8		+3.7		+1.9		-3.9	
算数	偏差値	50.8	49.9	48.1	45.7	48.4	48.8	48.3	48.0	47.6	47.4	53.3	49.6	47.0	48.6	53.0	53.4	57.8	51.4
	標準偏差	11.4	11.4	7.3	8.9	8.6	9.1	16.5	13.8	12.3	12.3	15.3	12.9	10.7	10.8	9.2	10.4	10.6	10.0
	男女の差	-0.9		-2.4		+0.4		-0.3		-0.2		-3.7		+1.6		+0.4		-6.4	
社会	偏差値	40.1	33.6	53.6	49.2	48.1	50.7	46.8	44.1	51.1	46.3	51.2	45.4	52.2	50.2	54.9	52.7	54.9	55.9
	標準偏差	10.5	11.2	14.3	15.3	10.1	12.5	12.4	11.0	11.5	6.8	13.1	11.5	10.4	10.0	8.3	8.2	11.6	11.7
	男女の差	-6.5		-4.4		+2.6		-2.7		-4.8		-5.8		-2.0		-2.2		+1	
理科	偏差値	38.5	38.7	52.9	48.7	47.0	48.7	47.9	45.3	49.9	48.6	50.0	43.5	52.9	49.7	51.9	49.7	57.2	50.3
	標準偏差	16.3	16.5	12.6	15.1	18.0	14.7	10.7	9.4	12.9	9.2	14.6	11.4	12.8	11.4	9.0	8.7	11.2	9.1
	男女の差	+0.2		-4.2		+1.7		-2.6		-1.3		-6.5		-3.2		-2.2		-6.9	

◎上記の表からも明らかなように、男女差はそれ程みとめられないけれども学年によって、又教科によって多少男女差がみとめられるように思う。

即ち中学 3年になると男女の学力差が明らかに現れるということ、女子は男子に比較して理科に対する興味が学年のすすむと共に減ってくるというようなことは現場の教師によって従前から指摘されてきたところであつたけれども、こうした傾向は今度の調査結果からも明らかに認めることができるように思われる。

(ヘ) 全体的な考察

◎国語

- ・テストの結果の総合的な問題については、さきにものべたように、ほぼ全国標準と前後している。
- ・学年によって多少男女の差のみられるところもあるが、大きな差はなく、有意の差があるとは思われない。

・よむ、かく、つくる、話すのうち特に劣っていると考えられる部門はつくるである。このような作ることの劣っているという点については、テストの結果からだけではなく、作文の分析や教師の話からも明らかに知ることができる。作文分析のために集められた作文が、一時間かかって書いた文章であるのに、僅か二三行しか書かれておらず書かれた文章は物事をみつめ考えるというようなことなく、極めてありふれたことを抽象的に書き並べたものが極めて多い。

又殆んどの子供が作文をきらい、作文の時間にも「何も書くことがない」「作文は大きらいだ」といふものが極めて多い。

このように、書かれた文章が短いだけではなくら列的であり生活や自然を深く観察することなくそれらを追求的に思考するという点のない點は、書かれている文章の中に漢字が極めて少なく、しかも書かれた漢字にも誤りが多いことと一緒に考えられなければならない点ではないかと考える。

特に我々が強く感ずるのは、作文指導に当って、生徒に文学的な表現記述を要求する前に、ありのままをみつめたすじの通った表現記述のできるような指導をしてやる必要があるのではないかとということであつた。

- ・読む力は比較的につくられていると思われたが、そうした読む力も単に読むということだけにとどまり、大意を的確に把握しながら思考しながら読むという点において問題があるように思われた。

◎算数・学

さきにも述べたように、このテストの結果だけから、この地区の児童生徒の学力を云々することは、多少の危険を伴うとも思われるけれども、このテストの結果と、子供達の指導に当たっている教師の意見とを合して、この地区の子供達の数学の学力の問題の解釈を行つてみる。

- ・低学年では数の合成よりも数の分解に誤算が多い。

即ち、合成の問題 2と3で□、4と4で□、5と2で□、3と4で□、4と5で□よりも、分解の問題 6は5と□、8は3と□、10は6と□、8は□と2、□は2と7の誤答が多い。このような分解における困難は10の分解の問題として、学年がすすんで後にも繰上り、繰下りの加減の困難となって現れてきている。

- ・数の構成や計算の意味をよく理解していない。

戦後新教育の下に教育された子供達は、戦前の子供達に比べれば計算力は劣っているが数の構成や計算の意味はよく理解しているといわれている。

併し調査の結果からは、よい答の数の構成や計算の意味もそれ程よく理解されているとはどうしても考えられない。

即ち4年の数えるの中の 13604は 万の位の数は□ど千の位の数は□十の位の数は□の問題や、 $47 \div 8$ のたしかめは $5 \times 8 + \square$ の問題 6年の計算での $14 \overline{)21.65}$ のあまりを求める問題 中学1年の計算の $\frac{3}{7} = 3 \div \square$ の問題等の誤答が多いのは こうした事情を物語っている。

- ・文章に書かれた問題を解く力が極めて劣っている。

各学年に共通している問題であり、極めて簡単な計算であっても、これが一度言葉でかかれると、急にできなくなってしまう。子供達は、問題の中にすじみちを立て、他の類似のことと関連づけて考えるということせず、又具体的なものから常に理法を見出そうとせず、すぐに、加えるの？、ひくの？、かけるの？、割るの？ とたずねる。

このように、書かれた問題を解くことのできない理由には文章を読む力が不足していると考えられると共に、特にすじみちを立てて考えるという態度が作られていないということをおげることができるとは考えられる。

◎理科

全体的には 全国標準より劣っているとは考えられないが、部分的には実験的な知識のとぼしいことが目立っている。又男子に比して女子が劣っているのは、この地区だけの現象ではないように思われるけれども、他の教科に比して劣り方がはげしい。特に女子が学年の高まりと共に、実験や機械等に対する興味を失い、世一般に女子の業とされている裁縫やお花や手芸等に強い興味を示してくる反面、こうした理科的なものに対する興味を失ってくるというところに問題がある。生活の科学化や合理化が強くと考えられなければならないのに、女子生徒がそれを特に深い関係をもっている理科への興味を徐々に失い、現在常識的に女子の受持とされている裁縫やお花手芸などのみに興味を向けてしまうということについては大いに批判を加えなければならないと考える。

●社会科

さきにも述べたように、全体的には、社会科も又全国標準に比べて劣っているとは考えられないけれども、これを小中学校にわけて考えてみると、小学校は全体として全国標準を下廻り、中学校になると全体的に上廻っている。而してこれを更に男女にわけて考えてみると、全体的に女子は男子に比して劣っている。又、中学生になると進学希望とそうではないものとの差が大きくなり、進学を希望する者のうち2の段階に集中してきている。これは、子供達の学習意欲が外的な期待の如何によって大きな影響を受けるものだということを示しているように思われる。

以下更に目標設定後ではあつたけれども、このような地域の児童生徒の学力の実態を明らかにするために実施した、全国学力水準テスト（国語・算数・社会・理科の4教科）の結果の概要を併せ記載し、前の調査の問題を一層くわしく解明するための役に立てたいと考えている。

(C) 小学校学力水準調査

(a) 調査の趣旨

この調査は全国小学校児童の学力の実態と各教科の学習指導上の問題点を明らかにして、国民教育改善のために必要な基礎資料を得ることを目的としたもので、いわゆる標準学力検査ではなくして、学習指導要領と、それに準拠して作られている各種の教科書の学習を通して、どの程度の学力を児童がもっているかをみようとするものである。

(d) 調査学年及び教科

調査学年	調査教科
小学校第六学年	国語、算数、理科、社会

(c) 調査期日と日程

期 日	調査教科
昭和29年11月18日	国語 理科
昭和29年11月19日	算数 社会

(d) 調査結果の処理

調査目的を明らかにするために

(イ) どのような点に学習指導上の問題点があり、どんな領域の問題についてとくに問題点があるか

(ロ) 本市の児童の学力に大きな影響を与えているものは何か

(ハ) 全国及び他地区との比較における問題点は何か

という問題の解明につとめた。

調査結果は各学校で学級一覧表を作成し、研究所において一括集計し、その資料にもとづいて学力水準調査実施委員会が研究分析を加えた。以下はその概要であるから詳細については学力水準調査報告書を参照願いたい。

(e) 各教科毎の問題の要旨と通過率

● 国 語 科

問題 番号	仕 事	小問 番号	検 査 す る 能 力	正 答 率			
				小問正答率		問題正答率	
				市 平 均	全 国 平 均	市 平 均	全 国 平 均
[1]	文 章 読 解	(一) (二) (三) (四)	文のいくつかの要点をつかむ 文の細かい点にまで注意をほらう 文の要旨をまとめてつかむ	60,4 29,9 70,2 41,1	63,6 27,2 70,7 47,6	50,4	52,3
[2]	文章読解と鑑賞	(一) (二) (三)	文の叙述を正確につかむ 文の要旨をまとめてつかむ	53,1 45,6 46,0	50,4 44,1 39,3	48,3	44,9
[3]	文 章 読 解	(一) (二) 1 (2)	文脈に注意して読む	55,4 30,9 18,8	56,6 38,8 25,9	35,0	40,4
[4]	文章読解と作文	(イ) (ロ) (ハ)	文段の要旨をつかみ、それらの論理的連関を正確に理解して、正しく表現する	45,8 47,7 54,6	37,0 — 50,0	35,3	26,3
[5]	表 現 (書く)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	文体を合わせて語句を推こうする	77,2 78,5 78,0 83,9 92,3 80,7 23,6 87,0	72,8 80,0 65,7 80,3 82,2 63,2 25,7 83,3	75,3	69,2
[6]	漢字の書きとり	1 2 3 4 4 6 7 8 9 10	語の中に正しい漢字を書きこむ	62,4 51,3 50,1 62,4 33,8 27,7 42,6 40,7 14,2 42,5	57,4 56,7 55,3 60,1 47,5 39,3 59,5 52,2 21,0 46,9	42,8	49,6
[7]	漢 字 の 読 み	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	漢字を正しく読む	68,1 52,2 46,9 40,9 73,8 56,4 44,6 31,1 82,4 45,8	62,4 46,8 33,0 40,7 72,5 59,6 61,5 33,5 78,6 60,5	54,2	54,9
[8]	文 法	一 三 三 四 五	まちがった語法に気づいて正しく表現する	50,7 47,9 42,8 41,4 33,0	59,8 52,1 44,3 46,4 42,9	43,2	49,1
[9]	表 現 (話す)		指示にしたがって正しく発表する			20,6	25,7

● 算 数 科

問題番号	診 断 目 標	正 答 率	全 国 平 均	
(18)	割合の意義	必要に応じて単位を適当に定めこれによつて所要の測定のねらいを達成する	17.4	20.9
(14)		適当に基準量や単位を設定して量の大きさを表わす数値を適当な大きさとし、その量の大きさをつかみやすくする	20.5	25. } 35.9
(3)		将来のことを推定したり似よりのところにおける状態を推定したりするのに割合を用いる	38.8	
(16)		将来のことを推定したり似よりのところにおける状態を推定したりするのに割合を用いる	1.3	1.6
(8)	割合の意味	割合は数量関係を調べたり、また量の大きさを示したりするのに用いられる一つの方法である	48.0	50.1
(16)		割合は数量関係を調べたり、また量の大きさを示したりするのに用いられる一つの方法である	1.3	1.6
(18)		割合は数量関係を調べたり、また量の大きさを示したりするのに用いられる一つの方法である	17.4	20.9
(2)		割合を示す用語や記号を用いる	29.7	35.9
(17)			26.9	30. } 33.
(6)		割合の表わし方についての相当関係や相互関係をj知る	44.9	51.4
(9)			38.1	44.9
(10)			51.7	58.6
(5)			51.8	49.9
(8)		量の大きさを割合によつて処理するとき基準になつている量の実際の大きさに着目する	48.0	50.3 } 50.2
(4)		基準量とくらべる量をとりかえたとその割合を表わす数jが変ることを知る	25.4	25.0
(12)			20.6	25.7 } 25.9
(17)	割合についての簡単な問題	(比の第一段階) 比の値を求める	26.9	30. } 33.
(2)		比の値を求める	29.7	35.9
(7)		(比の第二段階) 比の値にあたる量の実際の大きさを求める	12.1	19.4 } 33.
(13)		比の値にあたる量の実際の大きさを求める	46.4	46.7
(11)		(比の第三段階) 基準にしている量の実際の大きさを求める	12.5	17.1 } 14.5
(15)		基準にしている量の実際の大きさを求める	8.9	11.9
(1)	分数計算	基本的、形式的計算	65.9	71.6

● 理 科

問題番号	内 容	正 答 率	
		市 平 均	全 国 平 均
(1)	(長 さ)	95.6	95.5
(2)	(重 さ)	82.3	77.8
(3)	則 定 器 具 (水 温)	72.8	75.3
(4)	(大 気 の 温 度)	64.	59.4
(5)	(気 温)	40.6	38.6
(6)	(気 温 の 測 定 法)	38.6	45.6
(7)	石 け ん の 材 料	31.1	43.1
(8)	で ん ぶ ん 検 出 の 試 薬	40.8	49.9
(9)	植 物 の 炭 酸 同 化 作 用 に 必 要 な も の	45.1	53.2
(10)	葉 の で ん ぶ ん 検 出	26.	26.4
(11)	伏 度 反 応 実 験	20.9	26.7
(12)	空 気 と 呼 気 の 比 較	41.6	53.4
(13)	(伝 導)	26.7	31.3
(14)	熱 の 移 動 (対 流)	47.5	52.0
(15)	(輻 射)	67.3	67.2
(16)	輻 射 熱	40.3	41.6
(17)	ガ ラ ス コ ッ プ と 熱 湯	39.9	42.2
(18)	さ お ば か り	80.9	80.7
(19)	て こ の 釣 合	29.9	33.9
(20)	電 気 の 絶 縁 体	57.2	63.2
(21)	電 磁 石	48.7	50.2
(22)	電 鈴 の 回 路	50.4	54.5
(23)	電 気 抵 抗	34.8	35.0
(24)	豆 電 球 の 明 か る さ	18.5	24.0
(25)	水 と 油 と の 混 合	64.3	66.6
(26)	イ (酢 の ご み)	55.9	55.0
	ロ ま ざ つ て い る (砂 利 と 砂)	79.	62.9
	ハ 物 質 の 選 別 法 (塩 と 砂)	45.2	44.9
	ニ (も み と も み が ら)	68.5	67.2
	ホ (海 水 か ら 食 塩)	60.4	57.4
(27)	イ 光 学 器 具 の 選 定 (け ん び 鏡)	78.1	79.0
	ロ (プ リ ズ ム)	43.3	41.3
(28)	草 花 の 成 長 と 肥 料	43.3	43.0
(29)	ビ ー カ ー を 熱 し て 割 れ た 原 因	38.4	41.8
(30)	水 の ふ つ と う	30.3	33.2
(31)	大 気 の 圧 力	11.1	13.5
(32)	大 気 の 圧 力 を 利 用 し た 装 置	21.5	30.6
(33)	炭 酸 ガ ス 検 出 装 置	23.1	25.2
(34)	水 素 捕 集 装 置	39.8	44.2
(35)	酸 素 捕 集 装 置	19.8	24.9

◎ 社 会 科

(1)

問題番号	問 題 の 内 容	
[1]	わが国の主要な工業地帯の特色	(1) 工業の種類 (2) 立地条件

正答数別	正 答 率	
	市平均	全国平均
1つできたもの	4.7	2.9
2 "	4.2	3.0
3 "	5.4	3.7
4 "	5.5	4.4
5 "	5.8	4.9
6 "	5.8	4.7
7 "	3.9	4.2
8 "	3.9	4.2
9 "	3.0	3.5
10 "	3.2	3.3
11 "	4.1	3.9
12 "	3.	4.0

13	"	3.7	4.1
14	"	3.8	4.9
15	"	2.7	4.5
16	"	4.8	4.5
17	"	4.1	3.9
18	"	3.0	3.7
19	"	2.6	3.3
20	"	2.4	3.2
21	"	1.6	2.6
22	"	1.3	1.9
23	"	1.3	1.7
24	"	0.4	1.1
25	"	0.2	0.7
26	"	0.1	0.5
27	"	—	0.4
28	"	—	0.2
29	"	—	0.1
30	"	—	0.1
31	"	—	—
32	△	—	0.1
正 答 な し		3.	1.7
無 効		11.9	10.1
無 効		0.2	—

(2) (3) (4)

問題番号	問 題 の 内 容		正 答 率	
			市平均	全国平均
[2]	わが国の貿易の現状と問題	(1) グラフのよみ方 (貿易の性格)	(1) A—D 18.8	20.4
		(2) 輸入と工業	(2) A—F 13.4	13.4
		(3) 貿易の将来	(2) A—C 19.7	25.6
[3]	塩の国内生産と輸入の現状	(3) A—D 40.5	41.9	
		(1) グラフのよみ方 (生産や用途の現状)	(1) A—F 7.9	9.5
		(2) 塩の需要関係	(2) A—F 3.9	3.9
[4]	わが国の電力事情	(3) A—F 35.1	36.9	
		(1) 電力の地方差	(1) A—F 10.7	12.5
		(2) 水力発電と火力発電の関係	(2) A—D 12.3	14.1
		(3) 電源開発	(3) A—D 18.8	20.6

(5)

問題番号	問 題 の 内 容	
[5]	三つの時代における歴史的の事件	(1) 古 代 (2) 封 建 (3) 近 代

(1) 個別的史実

正答率 正当数別	A貴族の世		B武士の世		C新しい世	
	市平均	全国平均	市平均	全国平均	市平均	全国平均
1つできたもの	30.1	29.4	13.7	12.4	13.8	14.8
2 "	30.7	27.5	24.2	23.3	21.1	20.7
3 "	14.8	17.3	34	32.2	26	24.5
4 "	5.7	6.6	18.7	21.6	27.4	26.2
正答なし	13.3	14.6	4	5.8	0.3	9.2
無答	5.5	4.6	5.5	4.7	5.5	4.6

(2) やや一般的史実

正答率 正当数別	A貴族の世		B武士の世		C新しい世	
	市平均	全国平均	市平均	全国平均	市平均	全国平均
1つできたもの	20.4	27.0	17.8	17.8	7.8	10.6
2 "	22.6	22.9	25.5	24.5	16.9	18.8
3 "	11.5	13.1	28.5	24.5	31.9	28.5
4 "	4.9	6.1	12.8	17.1	31.5	29.6
正答なし	23.9	23.5	7.4	9.8	3.9	5.2
無答	8.0	7.4	8.0	7.3	8.0	7.3

(6) (7)

問題番号	問題の内容
[9]	江戸時代における工場制手工業の発生の原因
[7]	明治時代における機械生産の発達の原因

[6]

正答率 正当数別	市平均	全国平均
	1つできたもの	33.6
2 "	44.7	47.7
3 "	9.1	9.7
正答なし	5.4	5.5
無答	5.4	3.5
無効	1.8	1.1

$$\frac{\text{正答数}}{\text{小問数} \times \text{調査人員}} = 50.1\%$$

[7]

正答率 正当数別	市平均	全国平均
	1つできたもの	6
2 "	15.2	15.4
3 "	27.3	28.3
4 "	25	26.4
5 "	16	14.9
6 "	2.4	3.0
正答なし	1.5	0.8
無答	4.7	3.1
無効	1.7	2.4

$$\frac{\text{正答数}}{\text{小問数} \times \text{調査人員}} = 52.1\%$$

問題番号	問題の内容	
[8]	わが国の歴史における主要な三つの時代の特徴及び共通点	(1) 古代 (2) 封建 (3) 近代

(1) 政治史

正答率		A 貴族の世		B 武士の世		C 新しい世	
		市平均	全国平均	市平均	全国平均	市平均	全国平均
正答数別							
1つできたもの		30.9	31.1	8.6	10.0	8.3	9.2
2 "		24.2	24.7	15.7	16.8	13.6	13.3
3 "		9.	12.2	20.9	23.1	19.4	20.3
4 "		2.1	2.7	26	28.7	25.9	27.6
5 "		0.3	0.4	19.	16.1	21.9	18.6
正答なし		25.9	23.0	2.3	4.4	3.5	5.5
無答		7.5	5.9	7.5	5.9	7.5	5.8

(2) 経済史

正答率		A 貴族の世		B 武士の世		C 新しい世	
		市平均	全国平均	市平均	全国平均	市平均	全国平均
正答数別							
1つできたもの		30.	30.1	13.6	14.7	9.	9.2
2 "		21.5	23.4	24.6	25.8	13.1	14.2
3 "		10.8	11.2	25.7	26.0	18.	19.0
4 "		3.7	3.4	15.	14.3	25.2	24.2
5 "		0.4	0.4	3.5	3.2	20.1	19.7
6 "		—	—	0.4	0.4	—	—
正答なし		23.5	23.4	7.1	7.5	4.5	5.6
無答		10.1	8.1	10.1	8.1	10.1	8.1

(3) 文化史

正答率		A 貴族の世		B 武士の世		C 新しい世	
		市平均	全国平均	市平均	全国平均	市平均	全国平均
正答数別							
1つできたもの		32.7	32.2	8.	9.1	7.3	8.1
2 "		24.	26.2	13.8	15.4	10.9	11.5
3 "		7.2	9.8	19.2	20.0	22.3	23.9
4 "		2.4	2.2	21.4	22.5	44.5	41.7
5 "		—	—	19.	16.0	—	—
6 "		—	—	4.9	4.4	—	—
正答なし		22.9	20.6	2.9	3.7	4.1	5.8
無答		10.8	9.0	10.8	8.9	10.8	8.9

(9)

問題番号	問題の内容	
[4]	わが国の歴史における主要な三つの時代の類型	(1) 政治
		(2) 経済
		(3) 文化

正答率		問題	
		市平均	全国平均
(1) 政治	A	19.6	23.9
	B	24.9	28.4
	C	20.4	23.3
	A~C	8.6	11.5
(2) 経済	A	26.	27.6
	B	25.	25.9
	C	20.5	21.9
	A~C	9.6	11.1
(3) 文化	A	25.3	27.0
	B	25.7	27.3
	C	28.6	32.3
	A~C	12.8	14.5

(D) 中学校学力水準調査

昭和28年度実施した前掲の調査に加え、昭和29年度行った調査により本市学力の実態を明確にしたこの調査は国立教育研究所が昭和27年度より3ヶ年計画で特に夫々の教科の指導上の問題点と考えられる点について全国調査を行ったものである。詳細については研究所紀要11(中学校)(小学校は未報告)に明らかにしてあるので、ここでは学校種別に各教科(理科・数学・社会・国語)別に問題構成にもとづいて正答率を全国調査結果との比較において掲げる。

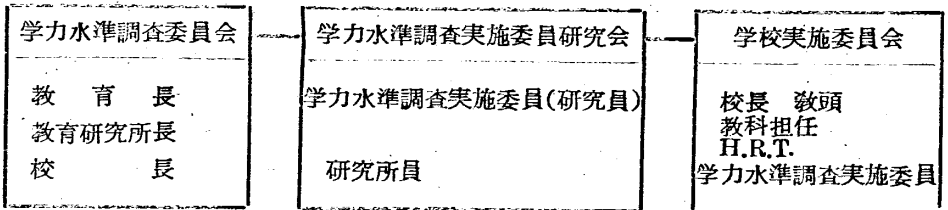
(c) 調査学年教科及び方法

調査学年	調査教科	方法
中学校第3学年	理科 数学科 社会科 国語科	悉皆調査

(d) 調査期日

学校種別	期 日
中学校	昭和29年 7月 8・9日

(c) 調査組織



(d) 教科別調査結果

(e) 各教科毎の問題の要旨と通過率

◎理科

問題構成

領域	目 標	問 題 番 号	問題数	小問数
A	単位及び測益に関する知識の有無をみる	(1)(2)	2	15
B	原理に関する理解の程度をみる	(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)(10)	8	15
C	資料の判読力をみる	(11)(12)(13)(14)	4	10
D	実験に関する理解の程度をみる	(15)(16)	2	10

調査結果

調査人員 I564

A 基本的単位及び測器に対する知識をみる

問題別	〔1〕										〔2〕				
	A					B					a	b	c	d	e
小問別	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e					
市平均正答率	97	96	96	93	91	80	77	68	30	30	87	97	80	48	85
全国平均正答率	96	95	95	94	91	80	75	65	30	31	86	95	83	46	74

B 原理に対する理解をみる

問題別	〔3〕		〔4〕			〔5〕		〔6〕				〔7〕	〔8〕	〔9〕	〔10〕
	a	b	a	b	c	a	b	a	b	c					
1										2					
市平均正答率	69	20	50	47	6	45	23	55	51	18	9	46	57	7	37
全国平均正答率	58	24	49	49	9	44	23	55	50	19	8	51	62	4	37

C 資料の判読能力をみる

問題別	〔11〕			〔12〕		〔13〕			〔14〕	
	A		B	1	2	a	b	c	a	b
小問別	1	2								
市平均正答率	52	54	50	34	51	85	56	41	23	38
全国平均正答率	52	52	54	35	51	89	57	40	26	40

D 実験に関する理解をみる

問題別	〔15〕					〔16〕				
	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e
市平均正答率	20	42	32	37	48	39	26	27	22	41
全国平均正答率	18	42	31	37	45	25	23	27	31	32

◎数学科

問題構成

中学校に於ける教学科学習指導上の問題点を明らかにする趣旨より、比及び比例の領域をとりあげ調査問題を次の表のように構成した。

内 容 域	テストする事項 (調査問題のねらい)	問題番号																						
		[3]			[4]					[5]			[6]	[7]	[8]	[9]								
		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	①	②	③	④	⑤	式 み	関 係	み	(1)	(2)		
I 比 に つ い て	1 比の 意味	そのままの数値の大小でくらべるか																						
		①大小でくらべるかを見分けることができるか	○	○	○																			
	2 この 使い 方	場面に応じて適切な量を基準にとること			○																			
		③比を用いる実際の場面 で基準になっている 量を見出すことが できるか												○	○	○	○	○						
	3 割合 の 表 し 方	乗法、除法の意味の上 に立って比の計算が 理解できるか																		○				
		⑤割合をいろいろな形 で表わすとき基準に なをとるかを見分 けることができるか																						○
II 比 例 に つ い て	4 正 比 例 反 比 例 の 意 味	⑦関係が式で与えられ たとき正比例反比例 を見分けることが できるか					○	○	○	○														
		⑧関係が数表で与えら れたとき正比例反比 例を兎分けることが できるか								○	○													
	⑨関係がグラフで与え られたとき正比例反 比例を見分けること ができるか										○	○												
5 数 比 例 定 意 味	⑩実際の場面で比例定 数が何であるかを見 出すことができるか																				○	○		
		⑪正比例、反比例を式 で表すことができる か																				○		
	6 正 比 例 反 比 例 の 使 い 方	⑫文章の形で与えられ た実際の場面であ くれている比例する 量を見出すことが できるか												○	○			○						
⑬グラフの形で与えら れた実際の場面であ くれている比例する 量を見出すことが できるか																							○	
備考	(1)は小数や分数の形式的な計算である[1]は[5]の結果を吟味するために用いる																							

・調査結果

調査人員 1570

【比について】

内容領域	比の意味	比の使い方								割合の表し方							
問題別	[3]	[5]			[6]					[2]				[9]			
小問別	1~3	③	④	⑤	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	
市平均正答率	10	12	29	5	15	17	12	23	29	15	22	31	25	38	36	9	
全国平均正答率	11	12	26	5	15	20	10	26	35	19	26	29	24	40	36	10	

Ⅱ 比例について

内容領域	正比例・反比例の意味								比例定数の意味						
問題別	[4]								[7]						[8]
小問別	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(2)
市平均正答率	13	5	8	7	6	9	11	16	11	11	20	16	7	4	2
全国平均正答率	13	5	7	9	8	12	9	19	12	12	21	18	6	4	2

正比例・反比例の使い方										簡単な計算				
[5]			[7]							[8]	[1]			
①	②	⑤	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	①	②	③	(4)	
40	22	5	54	27	26	19	28	28	1	39	52	44	55	
39	21	5	53	26	27	22	23	29	1	40	45	32	46	

(a) 内容的問題 [3] [5] [8] 形式的問題 [2] [4] [6] [9] を比較すると平均正答率は夫々11%と19%で実際の場面に比及び比例を用いることは却々困難である。

(d) 比の用法では比の第三の用法 $A \div P = B$ (Aは比であらわされた量の大きさ) が困難

(c) 簡単な計算の中でも特に小数の計算が悪い。

◎社会科

・問題構成

経済生活（生産）の領域における現象を対象としてえらび、それについての時間的空間的構造及び原理的構造の基礎的な理解力、総合的な判断力及び課題に関する理解力の実態を調査する。道徳の問題は共同作業を行っていく過程における人間関係についての道徳的判断力の実態を調査する。その問題の構成は次表の如くである。

ねらい 領域	基礎的理解		総合的判断		
	内容	問題番号	内容	問題番号	
道徳			ある工場で共同作業を行っていく場合多数決で定められた仕事の約束に対する責任のとり方	[1]	
			ある役所で居残りをして共同作業を行っていく場合に必要の積極的態度	[2]	
			ある部落で共同作業を具体的に進めていく場合、状況の変化に応じて全体に対してとるべき個人の態度	[3]	
経済生活 (生産)	時間的構造	日本歴史上の産業に関係のある事柄の年代的な順序	[5]	我が国における主要な歴史時代（古代、封建、近代、現代）の産業現象（農、工、商）の時代的性格についての類型的認識	[4]
	空間的構造	米の移出縣、移入県の区分	[6]	我が国農業の現状（農業人口の全有業人口に対する割合主要生産物、経営規模労働の仕方）	[9]
		まゆの大量生産県の位置	[7]		
		茶の大量生産縣の位置	[8]	我が国綿工業の現状（原料の輸入先、製品の輸出先、我が国の貿易における綿織物の位置、市場の変化）	[14]
		主要鉱産資源（石炭、石油、銅）の我国における産地の位置	[14]		
		我が国の石炭、石油の輸出の状況	[11]	工業の立地条件及び工業の特色からみた世界の主要工業地帯の性格	[13]
		世界の主要工業地帯の国名	[13]		

・調査結果

調査人員 1569

道徳的判断力

産業現象に対する時間的・空間的な基礎理解

問題別	[1]	[2]	[2]
市平均正答率	85	71	71
全国平均正答率	85	73	76

領域別 問題別	経済生活(生産) 時間的構造		農業生産について 空間的構造			
	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]
市平均正答率	39	11	17	40	24	23
全国平均正答率	43	11	30	31	31	27

工業生産の現象に関する理解

領域別 問題別	工業生産の現象に 関する基礎的理解			工業生産の現象に 関する総合判断	課題に対する理解
	[10]	[11]	[12]	[13]	
市平均正答率	24	68	33	51	4
全国平均正答率	22	62	33	49	2

註 農業生産についての空間的構造の領域の〔6〕は昭和24年という栃木県にとって特別な資料のため甚だしく正答率がおちている。基礎的要素的な知識の修得はできているが課題意識の確立・問題解決という点に学習の不足がみられる。

◎国語科

・問題構成

問題番号	仕事	材 料	検査する学力
①一、二 三	聞きとり 話し方	工場安全週間の説明と指示 "	(一)要点を聞きとる (二)1.2.3.4.5.正しく聞きとる (三)聞いたことを他人に伝える ときの心得
②	作文完成	短い紀行文手紙随筆記録議論 の文	(一)~(五)文のぬけているところ をできるだけ早く正しく仕上げ る
③	文章読解	「あきめくら」について論じ た学問的解説文	(一)文脈を正確につかむ (二)叙述を正確につかむ (三)ねらいをつかむ
④	文章読解	「ゴッホ」に関する随筆的評論	(一)~(五)文脈に注意して読む
⑤	文学鑑賞	「風」を主題にした四つの詩	詩の感情調子をつかむ
⑥	文 法	必要な語をふくむ短い文	(一)~(四)「と」「の」「でも」「よ う」の使い方の異同を見出す
⑦	漢字の読み	教育漢字とそれ以外のやさし い漢字	1~10
⑧	漢字の書き とり	教育漢字	1~10

・調査結果

調査人員 1572

①聞きとり 話し方

小問別	一		二					三
	(一)	(二)	1	2	3	4	5	
市平均正答率	80	73	66	54	73	79	73	54
全国平均正答率	86	78	74	56	66	76	74	51

②作文完成

小問別	一			二			三			四			五		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
市平均正答率	36	84	44	53	33	23	47	35	25	30	25	22	5	10	15
全国平均正答率	33	78	36	46	24	21	42	32	27	37	25	21	4	10	14

③④文章読解

問題別	③			④				
	(一)	(二)	(三)	(一)	(二)	(三)	(四)	(五)
市平均正答率	41	33	76	49	67	81	47	37
全国平均正答率	46	34	74	45	61	79	48	37

⑤文学鑑賞

小問別	2	3
市平均正答率	20	52
全国平均正答率	25	45

⑥文法

小問別	(一)	(二)	(三)	(四)
市平均正答率	67	42	52	51
全国平均正答率	70	42	49	52

⑦⑧漢字の読み書き

問題別	⑦									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
市平均正答率	61	37	81	44	52	75	40	62	62	72
全国平均正答率	66	38	84	56	61	79	44	69	63	72

⑧										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
61	47	53	67	60	77	72	76	47	72	
56	37	46	66	65	81	77	71	51	72	

・他教科に比較して中心部、周辺部、農村部の差が顕著である。特に学校で養成されると思われる点にはそれ程の差は認められないが、その他で養成されると思われる能力には開きが認められる。